



(第9期) 第10回まつもと子ども未来委員会の報告

11月5日(日)に勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、委員22人と大学生サポーター2人が参加しました。

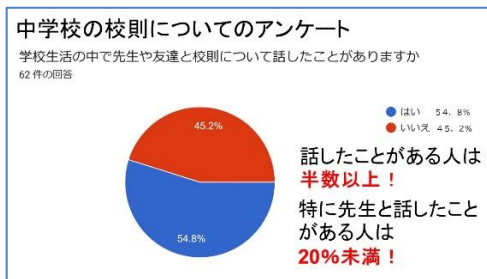
○活動テーマに関する話し合い、市への提言資料の作成

前回に引き続き、市への提言に向けて、グループごとに話し合いと資料作成を行いました。自分の学校でアンケートを取って、その結果を掲載しているグループもあり、資料の内容が充実してきました。

休憩時間も資料作成に取り組み、全てのグループで完成することができました。

次回の委員会は、市民フォーラムが行われる会場で発表のリハーサルを行います。

生活の改善グループ



～通学路に関するアンケート～

- | | |
|--|--|
| 危険なところ | こうして欲しい! |
| <ul style="list-style-type: none"> ・見通しが悪く、車や自転車いつ出てくるかわからない ・歩道が狭く、車とすれ違う時にぶつかりそうになる ・道がデコボコしていて、つまずくことがある | <ul style="list-style-type: none"> ・カーブミラーや呼びかけの看板を設置してほしい ・横断歩道を設置してほしい |



自然の保護グループ

松本市の課題
子どもたちの自然への興味の低下

- ・多くの子どもが「里山」という言葉を知らなかった。
- 里山の明白な定義について聞くと中高生や大学生も知らなかった
- ・自然に囲まれた松本市でも虫嫌いは非常に多い

市への提言

- キャンプ体験**
カレー作りや自然へのふれあいを通して、自然への愛着や理解を深める
- ムシキング対決**
みつけた虫を撮影し、貴重さに応じて高いポイントを付け、得点が1番多いチームを決める



ボランティアグループ

松本市の課題

- ・ゴミ拾いする人が少ない。
- ・リサイクルされていることがあまり知られていない。
- ・場所によってポイ捨てが多いところがある。(公園、道、道路)
- ・気軽にポイ捨てしてしまう人がいる。(お菓子のゴミ、タバコ、ビニール袋、ティッシュ、ガム)

市への提言

- ・一般の人が率先してゴミ拾いをやりたくなるようなボランティア活動を作してほしい。
 - ・ユニークなゴミ箱の設置
- 例 アンケート形式
ゲーム形式



PRグループ

松本市の課題

- ・PRの対象が大人に限定されている
- ・子ども(小学生以下)が楽しめるコンテンツが少ない
- ・認知度が高い人気のある観光地に集中している

市への提言

- ① 子ども向けのわかりやすい言葉、ひらがなで書かれたパンフレットの作成
→子どもが興味をもって松本市を知る機会になる
- ② 子どもが楽しめる体験型のイベントを増やす
- ③ 有名な観光地にあまり知られていない観光地(心霊スポット等)のパンフレット等を設置
- ④ 目を引きやすいポスター、ホームページの作成